

慈悲

眼

第32号

発行所
佐賀市西田代1丁目4-6
本行寺内
TEL 0952-24-1813
FAX 0952-24-1813

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
松野邦俊

を理解したらしいのでしょうか。

宗門では、もっと身近に立正安国論の教えを頂く為に二つのテーマの実践を掲げました。一つは、「いの

【立正安国論奏進】
七五〇年を迎えて】

佐賀市國相寺住職
松島 正英

本年は、日蓮大聖人が、鎌倉幕府に「立正安国論」を奏進されまして七五〇年の正当の年を迎えます。

「立正安国」とは、正法を立てて、国を安んずるという意味で、正法とは法華経の事であり、法華経の教えでないと安穏で平和な国は実現出来ないと仰せになられるのです。その当時、念佛の教えが日本中に蔓延し、教主釈尊の真実の教えをないがしろにしたが為に善い神は、日本を捨て去つてしまい、悪鬼が日本国に入り色々な災難が起きるのであると喝破なさいました。

さて、私達は、今七五〇年の時が過ぎ、どのようにこの「立正安国論」を理解する事であると私達にお示し下さいました。

祖山総登詣のお勧め

修法師会会长
佐賀市本経寺住職
粉井 恵親

本年は、日蓮大聖人が『立正安国論』を奏進されてから七五〇年を迎えます。宗門では、その記念として様々な事業が企画されています。御前にも、日本第一の法華経の行者、日蓮房が弟子檀那なりと名乗つて通り給ふべし。——靈山へましまして良の廊にて尋ねさせ給へ。(日蓮)

必ず待ち奉るべく候。但し各々の信心に依るべく候。とも申されております。私たちが、靈山淨土に赴き大聖人にお会いしたときに、「身延山にもお詣りし、家族共々正しいお題目信仰を持ち続けました」、というお土産をお持ちしたいものです。

この教えは、法華経の常不輕菩薩品第二十に説かれるものです。常に相手を敬い合掌の姿を忘れずにいれば、身延山に立てさせ給え。未來際までも心は身延山に住むべく候。』(日蓮)が弟子檀那等はこの山を本として参るべし、これ則ち靈山の契り也。』とのご教示に基づき、私たち檀信徒全員が身延山に参詣をしましようとい

の平和、心の平和実現の為にお題目をお唱えする事であると私達にお示し下さいました。

我々日蓮宗宗徒は、「立正安国論」お志を自らの志として地涌の菩薩の自覺のもと立正安国実現の為に一層精進していかなくてはなりません。

中で一度二度・・と、大聖人のお心がお棲みになっている身延山にお詣りをし、日蓮宗の檀信徒としての自覚を確かめましょう。

『日蓮は日本第一の法華経の行者也。日蓮より後に來り給い候はば、梵天・帝釈・四大天王・閻魔法王の御前にも、日本第一の法華経の行者、日蓮房が弟子檀那なりと名乗つて通り給ふべし。——靈山へましまして良の廊にて尋ねさせ給へ。(日蓮)

必ず待ち奉るべく候。但し各々の信心に依るべく候。』とも申されております。私たちが、靈山淨土に赴き大聖人にお会いしたときに、「身延山にもお詣りし、家族共々正しいお題目信仰を持ち続けました」、というお土産をお持ちしたいものです。

私たち修法師会は、大聖人が「立正安国」の誓願をお持ちになつたごとく國粧会等を行い世界の平和、日本の平和、国民一人ひとりの幸せを祈ることを布教の原点としております。

【特集】

『本阿弥光悦』

京都町衆文化の中での中心人物であり、法華經の熱心な信者であった本阿弥光悦を紹介致します。

平成二十一年十月十日より十一月二十

三日まで、京都国立博物館にて「日蓮と法華の名宝」展—華ひらく京都町衆文化—が開催されます。日蓮大聖人の「立正安國論」の展示や、日蓮宗の宗宝はもとより、サブタイトルの「京都町衆文化」が示す通り、桃山時代～江戸時代の美術作品も多数展示されます。

この時代の京都の芸術家、長谷川等伯・俵屋宗達・尾形光琳・尾形乾山等はみな法華經の信者だったのです。

その中でも本阿弥光悦は、芸術・信仰の両面において中心的な存在であつたと言えるでしよう。

本阿弥の始祖本阿弥長春は、鎌倉松葉谷の日静上人に帰依し、日静上人が京都に本園寺を建立する際に法名を授けられ、妙本と称するようになりました。

六代目本光ははじめ松田清信と名乗り、家業の刀剣の目利（鑑定）等で幕府に仕えていましたが、ある時、將軍から謀反の科をかけられ牢に捕らえられました。その時同じ牢内で出会ったのが、かの「鍋かむり」日親上人だつたのです。日

じげん

親上人は焼け鍋を被せられるなど厳しい拷問を受けましたが決して怯むことがなく、日親上人の強固な信仰を目の当たりにした清信は深い感銘を受けて日親上人に深く帰依したのです。清信は法華經の教え「娑婆即寂光土」から「光」の一字を授けられ「本光」の名を頂戴し、以来、本阿弥家では法華信仰の証として名前の一字に「光」の字がつけられるようになつたそうです。

さて、本阿弥光悦は家業である刀剣の鑑定等の影響もあり、幼い時からあらゆる工芸に対する高い見識眼を鍛えぬかれていき、さらに、父が分家となり家業から自由になつたことと、本阿弥家の富を背景として、和学の教養と独自の書風を身につけるなどして美術・工芸面に金字塔をうち立てることになるのでした。

光悦は徳川家康から京都の西北鷹峰に広大な土地を与えられ、光悦が鷹峰に住居を構えると、やがて尾形宗伯など親しい仲間や、塗師、金物師までが鷹峰に集まり、光悦はこれらの人々にそれぞれ土地を分け与え家を造り、仲間達とともに

芸術活動に没頭しました。光悦はその才能を發揮し、芸術活動の総合プロデューサーとなり、やがてその流れが光琳や乾山を中心とする「琳派」を生み出していくことになるのです。

信仰の面では、光悦は、妙蓮寺の日源上人の求めに応じて「立正安國論」・「法華題目抄」・「如說修行抄」など多くの日蓮聖人の御遺文を書写したのをはじめ、池上本門寺の「本門寺」・中山法華經寺の「正中山」「妙法花寺」・京都本法寺の「本法寺」など多くの扁額を寄進しています。また、本法寺の庭園「巴の庭」は光悦が作庭したと伝えられています。

鷹峰には光悦寺をはじめ四つの寺院が創建され、光悦の子光瑛は、日蓮宗中興の祖として名高い寂照院日乾上人（身延山久遠寺二十一世）を招いて、鷹峰檀林（檀林とは僧侶のための学問・修行の場）を創立しました。

このように、信仰にも篤い光悦の宗教的・芸術的なつながりがあつてこそ、それまでの千利休に代表される「ワビ・サビ」の「禅」的な文化から、「キレイサビ」と呼ばれる桃山文化「法華文化」がまさに華ひらいたのでしよう。

佐賀県宗務所では十月に開催する身延京都団参にて同展を観覧致します。参加ご希望の方は菩提寺にお尋ね下さい。

佐賀の老舗 佐賀の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952-23-2955(代)

佐賀県警友会指定
本下株式会社 草苑

北佐賀草苑
TEL 0952-30-4040
FAX 0952-30-4043
佐賀市兵庫町1115

大和草苑
TEL 0952-64-8448
FAX 0952-64-8447
佐賀市大和町尼寺722-1

南佐賀草苑
TEL 0952-25-1255
FAX 0952-25-1088
佐賀市本庄町本庄951-10

鳥栖草苑
TEL 0942-82-6430
FAX 0942-82-6502
鳥栖市古賀351-1

『唯佛與佛乃能究盡諸法實相』

今回のお経文は、私達が良く読むお経の一つ、方便品の中の十如是（如是相、如是性）の直前の一説です。

『仏だけが、あらゆる教えの本当の姿（実相）を理解（究盡）しているのですよ。』と、お釈迦様が弟子の舍利弗に説かれています。

お釈迦様の弟子の中でも、最も物事の理解が早いとされていた「智慧第一の舍利弗」でさえ、最高の教え、妙法蓮華經（法華經）は理解することができない。だったら、その他の弟子や、今生きている私達に、この妙法蓮華經という教えを理解することは到底無理なことでしょう。

では、私達に理解することができない蓮華經という教えは、役に立たないものなのでしょうか？

私達の身の回りをよく見て見ますと、実際に色々なものが生活の中で活躍しています。テレビを見て楽しんだり、車を使つて遠くへ行つたり、携帯電話でいつ

【妙法蓮華經・方便品第二】より

でも連絡が取れたりと、便利なものが沢山あります。

しかし、これらの全ての道具の仕組みを理解して使つている人は、一体どれほどいるでしょう。

テレビも車も携帯電話も、その中身を完全に理解せずとも、きちんと正しい使い方をすれば、私達の生活を豊かにしてくれるものです。

そう考えますと、物事の中身を完全に理解することは、意外と重要なのかかもしれません。本当に大事なのは、その正しい使い方を知り、私達の生活に役立てることなのではないでしょうか。

日蓮宗の祖であります、日蓮大聖人も、法華經について同じ事を考えられました。

理解することができないのならば、ただその力を信じればよい。法華經の中で、この教えによつて仏の世界へたどり着けるとされているならば、お経そのものを信じる事を実践すればよい。とされ、

〔南無妙法蓮華經〕
（私は妙法蓮華經の力を信じます）
と唱えることの大切さを説かれたのです。

また、日蓮大聖人は、

「岸の上の人が私達を引っ張り上げようと繩を下ろしてくれているのに、繩を引っ張ってくれる人の力を疑つていては、いつまでたつても上へ登ることはできませんよ。」とも仰られています。

岸の上からの素晴らしい眺めは、岸の上にたどり着かなければ、下にいる人達には想像もできないでしょう。けれど、上へ引っ張つてくれる力を信じなければ、そこへは辿り着けません。まずは目の前にある繩を、引っ張つてくれる人の力を、信じることから始まるのです。

私達には仏様の教えを理解することはできないかもしれません。けれども、「南無妙法蓮華經」とお唱えした先には、世の中を見渡す仏様の智慧が待つていることでしょう。

共にお題目修行に励んで行きましょう。

手を合わせるこころを大切に・・・

山木化具
佐賀市吳服元町10-12
TEL(0952)23-4308
FAX(0952)23-5564

・寺院用具一式
・登高座
・仏壇
・鐘
・塗
・前卓
・修復
・人天蓋
・宗教絵画
・其の他
・鎧金物
・須弥壇
・美術彫刻品
・神殿用具
・仏像彫刻
・宮
・經
・瑠璃
・箔

平成21年度・創業87年目、仏壇・仏具の総合専門店

光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564



【立正安国論】

奏進七五〇年御正当法要
並、檀信徒協議会総会

去る七月五日、小城市松尾山護国光勝寺に於いて、僧侶及び檀信徒あわせ約二五〇名の参加者を得、「立正安国論」奏進七五〇年御正当法要並、檀信徒協議会総会が佐賀県宗務所主催にて行われた。

「立正安国論」奏進七五〇年御正当法要では、大導師に本山光勝寺貫首平井日延猊下、副導師に宗務所長小寺大誠僧正、協議員議長加藤智顕僧正、式衆に声明師会各師の出仕にて厳かに執り行わた。法要の始めに日蓮宗宗務総長の宣言文『七百五十年前「立正安国論」に込められた日蓮聖人の祈りは、今や万民の祈りとなり、世界全土、全人類共通の切なる願いでもあります。久遠のご本仏釈尊が、正しい教えが滅する末法の時代と、生命ある全てのものためにお遣し下さいました真実の教え「妙法蓮華経」は、今を生きる人々にとって唯一の希望であり、闇夜を照らす大燈明であることを、宗祖日蓮大聖人はお示し下さりました。

私どもは今日、此の時、ここに於いて七百五十年前に発せられた宗祖の御心に異体同心し、「信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ。然れば即ち三界は皆仏國なり」のメッセージが、現

代人のみならず、未來を継ぐあらゆる人々と、全ての国土に行き渡る事を祈ります。

そして、私どもは個々の成仏から全体の成仏を願い、世界全体の幸福なくして我身の安堵はあり得ない事を力強く表明し、御仏の慈愛とお導きによつて生かされる「真の仏子」として万民の祈りを形となし、御仏の大慈大悲の教えが日輪の如く益々輝きを増し広く伝わり、あらゆる国土が正しい教えを受け持つ人々によつて安穏なる世を築かんことを念じ、人々の願いを実現する立正安国の大道を歩まんことを誓願致します。』を小寺大誠宗務所長が代読。

法要中に、本山光勝寺貫首平井日延猊下が、本堂御宝前の国宝「立正安国論」復刻版を拝し、「日蓮大聖人が正しい仏法の信仰が広まり、穏やかに治まる国家の実現を願い「立正安国論」を前執権北条時頼に奏進されましたが、聞き入れてもらえなかつたが為、深刻な災難に衆生の苦しみは止まるところを知らなかつた。今現在も地球人類全体が異常な危機に遭遇し、日蓮大聖人の深遠さを思う。』と、高らかに表白文を読み上げられた。

法要終了後、布教師会会长松島正英上人による記念法話で、「立正安国論」を用いて（法華經信仰の大切さ）（命の尊さ）（相手を思う気持ち、相手に対する合掌）など、解りやすい話に檀信徒も熱

心に聞き入つていた。

昼食後には、檀信徒協議会総会にて、○第五十六回全国檀信徒協議会の報告○平成二十一年度事業報告・決算書報告○平成二十一年度事業計画・予算書報告が行われた後、無事閉会を迎えた。



法要



設計 施工

石の雅

www.ishinomiyabi.jp

平川石材店

小城町上町 ☎ 73-4738

石材・墓石に関するることは、すべてお任せ下さい。

総合葬祭有限公司 黄城

こう うん かく

葬祭会館

〒 845-0022
佐賀県小城市三日月町久米2134-1 (JR 小城駅西)

黄城代表番号 ☎ (0952)-73-3938
光雲閣 ☎ (0952)-73-2020